

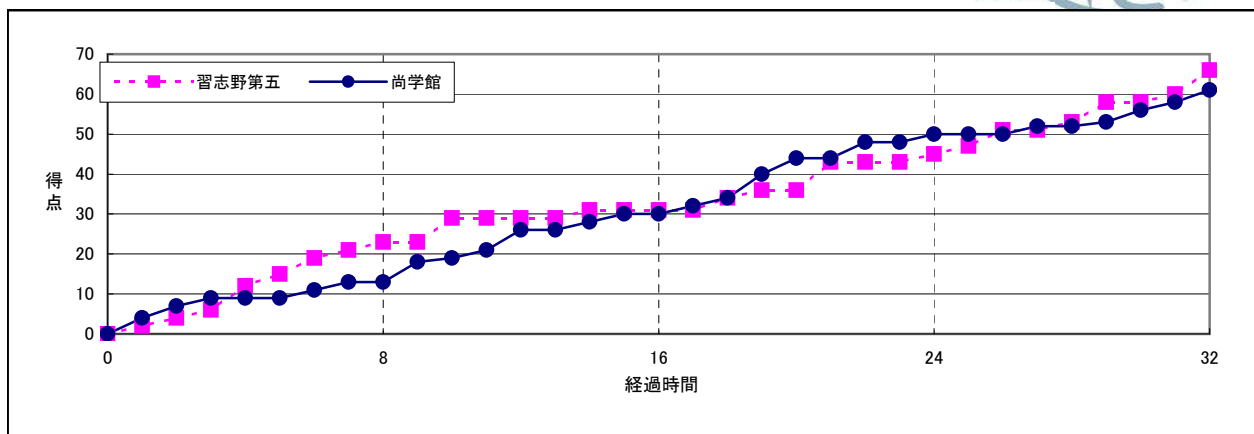
【game report】

No. 2 - HA - 1

平成20年度全国中学校体育大会
第38回全国中学校バスケットボール大会



試合区分	2日目 男子 HAコート第1試合 決勝トーナメント1回戦																	
日時	8月24日(日)	9:30 ~																
会場	東総合スポーツセンター																	
結果	習志野第五	<table border="0"> <tr><td>23</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>8</td><td>2nd</td><td>17</td></tr> <tr><td>14</td><td>3rd</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>4th</td><td>11</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	23	1st	13	8	2nd	17	14	3rd	20	21	4th	11		OT		尚学館
	23		1st	13														
8	2nd	17																
14	3rd	20																
21	4th	11																
	OT																	
	千葉	66	61	宮崎														
審判	主審 大江 裕之	副審 友野 直己																



【個人トータル表】 ×=スターティングメンバー / =出場選手 空欄=出場なし

習志野第五							
No.	選手氏名	Pl-in	得点	3 P	2 P	FT	反則
4	小松雅輝	×	23	2	7	3	3
5	西鶴大輔	×	14	0	6	2	0
6	山口大貴	/	0	0	0	0	0
7	篠崎健						
8	石井竜也	×	16	1	5	3	4
9	菊池岬	×	3	1	0	0	0
10	手塚正義						
11	江原悠佑	×	10	0	5	0	2
12	高橋綾						
13	中川拓海						
14	飯田恵介						
15	神岡隼人						
16	徳永滋紀						
17	本山晃希						
18	須藤修史						
監	天田正弘	/					
C	天田正弘	/					
合計			66	4	23	8	9

尚学館							
No.	選手氏名	Pl-in	得点	3 P	2 P	FT	反則
4	岩田大輝	×	23	0	10	3	3
5	年森俊維						
6	杉本拓哉	×	5	1	1	0	1
7	善家耕太郎	×	11	0	5	1	2
8	田中駿也	×	22	3	6	1	4
9	齋藤慎也						
10	寺園脩人	×	0	0	0	0	2
11	濱田峻汰						
12	安田和平						
13	杉本祐樹						
14	岩本遼太郎						
15	重黒木千拡						
16	夏井隆光						
17	松田将馬						
18	寺園晟						
監	伊東正顕	/					
C	佐々木博之	/					
合計			61	4	22	5	12

3 P = 3ポイントシュート 2 P = 2ポイントシュート FT = フリースロー

両チームともDefはハーフコートのマンツーマンでスタート。習志野五は速攻からの得点に対し、尚学館はリング下への合わせのプレーで3分過ぎて8-9と互角の展開。ここから習志野五は速攻をからめ、#11、8、4が確実に得点するなど、1Qを23-13の習志野五優勢で終了。2Qに入ると尚学館はDefをオールコートのゾーンプレスから3-2のゾーンに切り換えるが、習志野五の#4が3Pを2本連続で決め、Defを崩され2分過ぎて19-29と得点が縮まらない。ここで、すかさず尚学館はマンツーマンDefに切り換えると習志野五がoffリズムを崩しシュートミスを連発する。尚学館は#7のリング下、#6の3Pや#8の速攻などで加点し、2Qを30-31の習志野五が1点リードで折り返す。3Qに入ると両チームのDefはマンツーマンでスタートするが、習志野五の#4に対し尚学館#8が強いあたりのDefを続け、#4がoffリズムを崩し得点できない。お互いに激しい攻防が続く中で4分過ぎ、尚学館#8の速攻が決まり44-36とリードする。たまたま習志野五がタイムアウトをとり、Defをオールコートのゾーンプレス・ゾーンに切り換える。尚学館もあわてずに対応し、3Qを50-45の尚学館5点リードで終了。4Qに入ると習志野五のDefが機能し、尚学館のシュートミスやさそい、#4、5、8の連続でゴールで残り6分40秒で51-50と逆転する。その後は、シーソーゲームを展開するが、残り59秒、#4がフリースロー2本決め62-58とリードする。その後、激しい攻防の末、66-61で習志野五が逃げ切って勝利した。両チームとも持ち味を出し切ったレベルの高い好ゲームであった。

記録者： 石川 覚